

令和6年度第3回勝間公民館運営審議会 議事録

- ・開催日時 令和7年3月3日（月） 午前10時～11時35分
- ・開催場所 勝間公民館 集会室
- ・出席者 藤本副委員長 由川委員 藤井委員、中谷委員、阿部委員、野村委員、藤山委員
【公民館】森原館長 加藤社会教育指導員
- 欠席者 国澤委員長、白井主事補（公民館用務）

◇議事◇

館長から始めの挨拶

1 委員長挨拶

2 協議

(1) 令和6年度公民館事業報告

○公民館事業実施報告（館長）

- ・学級、教室（各年間8回実施：延べ573名の参加→女性学級・高齢者教室は参加者が増加している。）、市民教養講座（7講座：後期は、申込者増加。）、サークル活動（18サークル）について、予定どおり実施できた。
- ・地域との共催事業である勝間地区文化祭は。昨年より来館者が増えた。2日間で371名の参加があった。
- ・その他、情報発信、国府ふるさとネット作品展示を勝間小・国府中で実施。学ぼうやギャラリーを年間通じて、公民館ロビーにて展示。

○学級・教室年間学習実施状況、アンケート報告（加藤社会教育指導員）

- ・学級、教室は、上記の報告同様である。家庭教育学級（通称にじいろくらぶ）は、運営委員さんが例年になく積極的に動かれて、今後の活動が積極的になるよう独自のアンケート調査等を実施され、それを来年度に活かすよう勝間小学校・PTA・公民館の三者で、コラボしたり、申込案内を地区の保育園・幼稚園等に配布する等、動いている。
女性学級・高齢者教室は、参加者が増加した。勝間公民館の特徴として、高齢者教室の参加者は、男性が多いことである。今年度は、最後の講座は、合同開催として、閉講式を一回にして、運営委員さんの負担軽減に努めた。
- ・利用者アンケートの報告が行われた。学級・教室いずれもアンケート調査の回答で、SNSによる情報発信は、半数の人しか、活用されていない現状がある。施設活用について、今年度は、学習室の床がカーペットに変わり、椅子とテーブルが軽いものに変更された。そして、すべての部屋や廊下、トイレ等がLED化されて、明るくなったが、まだ改善を望む人が一部、存在する。
- ・アンケート結果から懸念されることは、現在、高齢者教室の参加者は80代以上が70%を超えているが、5年先、10年先がどのようになるかということである。運営の仕方等を考えていく必要がある。

○市民教養講座実施状況、アンケート報告（白井主事補に代わり館長が説明）

- ・7講座開講できた。受講人数は例年に比べ、後期に増加した。定員割れはなかった。
- ・利用者アンケートの報告が行われた。市民教養講座は、参加者は98%が女性である。

- ・講座に参加することで、仲間づくりができてうれしい、同じ趣味をもつ人たちと集まることができて楽しい等、公民館がもつ意義を確認できる回答が多い。

○公民館利用状況（館長）

- ・令和6年4月から令和7年2月までの利用区分ごとの状況について報告があった。年間1万人以上の利用がある。また、勝間公民館は、有料利用団体数と利用人数が他館に比べて多い。

○公民館事業収支状況

- ・収支事業報告書に基づき、収入、支出状況について説明があった。今年度は、環境整備費と印刷費の使用費用が増加しているが、トータルとしては、予定どおりの支出ができています。未執行分は消耗品等を購入に充てることとしている。

（全体説明における質疑・応答）

Q：アンケートで、施設改善が必要といわれているが、具体的に何を指すか。

A：今年度は、施設改善が進んだが、それでも「廊下が滑る」「靴で入館できないか」等の要望である。

Q：施設利用で、夏の「涼み処」の利用者はどれくらいあったか。水とかの提供は。

A：地区民中心で、4～5名程度の利用があった。市役所が、熱中症対策の飲料等を配布しているが、それを提供するようないななかった。保護者から言われて、子どもが2名利用した。

(2) 令和7年度の計画

○市民教養講座開設予定講座（館長）

- ・3月3日（本日）から募集をしている講座と応募状況と現時点で定員に達している講座の報告があった。朝7時～申し込みのために並んでいる。講座によっては、9時現在で、定員に達している

○サークル登録承認（館長）

- ・登録申請をしている16団体、人数が揃えば申請予定の団体、市民教養講座募集が定員に満たない場合にサークルとして活動することについて承認された。

○年間行事予定(館長)

- ・令和7年度の主な行事について説明と行事に地域行事とのすり合わせが行われた。勝間地区文化祭は11月8日（土）と9日（日）、国府中文化祭は10月25日（土）26日（日）、勝間小学校の土曜参観日（発表会）は11月29日（土）となっている。

(3) 報告事項

○「国府ふるさとネット」について

推進委員会における会議内容の報告があった。少人数に分かれて、討議を重ねることにより、活発に意見交換ができた。今年度は会場を佐波公民館で「みちぎネット」と「国府ふるさとネット」の合同熟議を実施したが、今後は、地域と学校がパートナーとなり地域学校協働活動になることを考えている。

昨年度に比べて、「あいさつ運動」の効果か、子どもたちの「あいさつ」の質が向上している。また、国府中学校のボランティア参加者の質が向上している。（毎回、反省会を実施。）

2 情報交換

○国府中学校から

- ・学校経営の柱の一つとして「地域とともにある学校」がある。地域の中で、子どもたちが活躍できる場の提供を地域にお願いしたい。部活動も地域移行となった。「学校の中だけでのよい子」→「どこにいてもよい子」に子どもたちを変えたい。
- ・生徒のボランティア活動を推進したいので、地域行事に必要なであれば連絡してほしい。

○勝間小学校から

- ・「あいさつ運動」等を通じて、明るい学校にしたい。勝間小学校の子どもたちは、自己肯定感の低い子どもが多い傾向がある。大人や教師からは、しっかりほめて、自己肯定感を高めていきたい。特に、地域において、認めていくことができればありがたい。

3 その他

- ・明るい勝間づくり推進協議会から、文化祭のブースを誠英高校の勝間地区の生徒を中心とする中・高（小）の子どもたちに任せたいと考えている。
- ・自治会連合会では「結いネット」があり、現在、勝間地区は10自治会が参加している。今後は活用したい。
- ・食推としての活動は、今年度は勝間小学校の5年生への指導、毎年一回の「オアシス教室」の調理指導、山口短期大学での指導、勝間公民館の夏休み中の「親子調理教室」等を予定している。
- ・高齢者教室では、今年度は参加者が増加して喜んでいるが、課題は、高齢化である。今後のことを早急に考えたい。
- ・小学生の遊びをしっかりと充実させることができればよい。（休み時間が有効に活用されることを望む）
- ・家庭教育学級（にじいろくらぶ）へ参加したことがあるが、勝間小学校とのコラボは、勝間地区の良いところであるが、運営委員がある学年に固まることは、その他の学年や幼児期の子どもをもつ親には、参加しづらいところが過去にあった。
→現在の運営委員が積極的に動いているので、来年以降、大幅に改善が図られると思う。
実際に、参加案内を小学校の全学年と同時に、地区の保育園、幼稚園等にも配布する予定。

館長から終わりの挨拶

- ・次回の開催案内：令和7年6月6日（金）予定

上記のとおり、令和6年度第3回勝間公民館運営審議会の報告をいたします。

令和7年3月4日

勝間公民館長 森原 清